

2007年度3年次編入学試験「実技試験」「小論文」等の採点基準

学科・専攻	実技試験(芸術学科は小論文)		面接	
	狙い・意図、採点のポイント		狙い・意図、採点のポイント	
日本画			作品の力量が編入するのに値するかどうか、また将来性があるか。この2点に重点を置きました。	
油 画			自分なりの制作を模索しており、その方向が我々教員の理想とする教育と一致しているか、また各自の大学編入学後のビジョンはあるか、どのような意図を持って制作しているか、本学を選んだ理由が明確かどうか、編入に相当するだけの作品と思考が充実しているかなどを問い採点の基準としました。	
彫 刻			一般入試で入学した学生と比較して、実技や専門知識等に大きな差異がないか、編入後の学習意欲や目標、提出作品についての自己評価、また興味のある作家や将来についての指標などを質問し、総合的に判断しました。	
工 芸			なぜ、工芸学科で学びたいのか、まずは再確認したい。3年次からは、より専門的、主体的な制作に向かっていきます。そのために提出作品等を介し、本人の今後の制作目標も含めながら、面接の中で、その基礎能力があるのかを判断します。また、小論文からは、本人が普段から、どのような思考をしているのか読み取りたい。面接の中で、本人から直接伝わってくる熱意も重視したい。	
グラフィックデザイン	出題のねらいは、デザイナーとしてビジュアルコミュニケーション効果を造り出すために必要なデッサン力を求めています。それには、創作の原点ともなる観察力、そこから生まれる発見やひらめきなどを描けるのかを問います。		面接試験のねらいは、当学科の授業への取り組みの意欲を把握し、作品・ポートフォリオによって基礎的な造形力の評価を行います。	
プロダクトデザイン	与えられた材料(スプリング)を応用して新しい道具を4種類創造し、スケッチする課題を出題しました。出題のねらいは、4種類の道具のアイデアに独創性があるか、そのアイデアをきちんと表現できているかを見ました。これらの達成度が採点のポイントとなっています。		作品のポートフォリオによる面接を行いました。面接のねらいは、当専攻の1,2年生で修得すべき実技内容をクリアできているかを見るためです。当専攻1,2年レベルのデザイン習熟度が採点のポイントになっています。	
テキスタイルデザイン	テキスタイルデザインを学ぶために必要な基礎的観察力、色彩表現力に加えデザイン力を問うことをねらいとして出題しました。また、解答の中に設問に対する解釈と独自の表現が示しているかを採点のポイントとしました。		受験者が本専攻の基礎課程(1,2年次)と同等の実力を有しているか、また、3年次からの授業についていけるかどうかを持参作品によって審査しました。さらに口頭および記述によって、自分の考えやテキスタイルデザインを学ぶための熱意を明確に説明できるかも評価の対象とし、採点のポイントとしました。その際に共通の小論文を参考にしました。	
環境デザイン	本学一般入試と同レベルのデッサン力があるか。形、空間を把握し、平面上に表現する能力があるか。		在籍中の学校において本学科の1、2年次で学ぶ内容と同等以上の教育を受けているか、また本学科の3年生と同レベルの知識、デザイン力があり、授業についていけるかどうか。学校を変えること、専門分野を変えることに対する目的意識がはっきりしているか。デッサン以外のデザイン力をポートフォリオによって評価。	
情報デザイン			ポートフォリオ審査では、これまでの学業への取り組みを見ると同時に、作品プレゼンテーションによるコミュニケーション能力も評価対象にしました。編入後にはスムーズに情報デザイン学科のカリキュラムにとけ込むことができるのか、将来的な展望を質問します。幅広い情報デザイン分野について正確に認識されているか、メディア時代の創造者となるような資質を見いだせるかどうかポイントになります。	
芸術			芸術学科で、なぜ、学びたいのかを確認し、受験生の知的能力、知的関心がその研究を進めていくのに十分なか、芸術と理論や歴史に関する基礎知識を持っているか、を判定します。他の学生とコミュニケーションを活発に行える人柄かどうか選考のひとつの要件となります。	

全学科共通小論文

各学科の専門的な教育内容に対して興味・関心を持っているかを文章表現上のテーマの選び方から判断します。大学における教養教育を修得する上で基礎的な能力を幅広く有するかを文章上から判断します。3年次編入にあたって、それまでに修得した知識・教養が文章に充分反映されているかを判断します。